

当ファンドの仕組みは次の通りです。

| | | |
|--------|---|--|
| 商品分類 | 追加型投信／内外／株式 | |
| 信託期間 | 無期限（設定日：2009年1月19日） | |
| 運用方針 | マザーファンドの受益証券へ投資を行うことで、投資信託財産の長期的な成長を図ることを目標にアクティブ運用を行います。 | |
| 主要運用対象 | コモンズ30ファンド | コモンズ30マザーファンドの受益証券ならびに国内外の株式等を主要投資対象とします。 |
| | コモンズ30マザーファンド | 国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。 |
| 主な組入制限 | コモンズ30ファンド | 株式への実質投資割合には制限を設けません。外貨建資産への実質投資割合には、制限を設けません。 |
| | コモンズ30マザーファンド | 株式への投資割合には制限を設けません。外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。 |
| 分配方針 | <p>毎決算時（原則として毎年1月18日（休日の場合は翌営業日））に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。</p> <p>①分配対象額の範囲 経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益および売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。</p> <p>②分配対象収益についての分配方針 収益分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。ただし、委託会社の判断により、収益分配を行わないこともあるため、将来の分配金の支払いおよびその金額について保証するものではありません。</p> <p>③留保益の運用方針 留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。</p> <p>*当ファンドは、分配金再投資専用とします。収益分配金は、所得税および地方税を控除した金額を当ファンドの受益権の取得申込金として、お客さま（受益者）の当該収益分配金の再投資に係る受益権の取得の申込みに応じるものとします。</p> | |

※当ファンドは、課税上、株式投資信託として取り扱われます。


運用報告書（全体版）

コモンズ30ファンド

第11期（決算日：2020年1月20日）

◆受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り厚く御礼申し上げます。さて、「コモンズ30ファンド」は、このたび、第11期の決算を行いました。ここに謹んで運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

 **コモンズ投信株式会社**
commons
asset management, inc.

東京都千代田区平河町二丁目4番5号 平河町Kビル5階
<https://www.common30.jp>

◆お問合せ先

コールセンター：TEL. **03-3221-8730**

受付時間 9：00～17：00（土日祝日、年末年始を除く）

皆さまのおかげを持ちまして、『コモンズ30ファンド』の第11期の決算を迎えることが出来ました。役職員一同、改めて心から感謝申し上げます。

時代は、平成から令和に変わりました。テクノロジーや社会の価値観も大きな潮目の変化を迎える中、平成の約30年間を振り返ることで令和時代にも通じるヒントを考えてみます。平成は企業経営にとって難しい時代でした。バブルの後遺症に日本経済は長く苦しみ、金融危機も発生し産業界には十分な資金が回らない時期もありました。加えて、長く続くデフレが企業の収益も圧迫しました。こうした国内要因以外にも企業を取り巻く環境は激変し、世界は中国、インド、ブラジル、ロシアなどの新興国が次々と台頭しグローバル化が進みました。さらに、インターネットの出現とともにデジタル化も加速度的に進みました。こうした外部環境の大きな変化に日本企業の多くは翻弄されました。まさに、平成は激動の時代だったわけです。日経平均株価も平成の30年間では約26%の下落となりました。ただ、そんな時代でも一握りの企業は大きく成長しました。企業価値の増大を株式時価総額の増減率でみると、平成元年の時点で東証上場していた全1287社のうちの約60%の企業は時価総額を減少させましたが、約5%の64社は逆に時価総額を5倍以上にしています。どんなに厳しい時代でも、ビジネスチャンスを見つけ、大きく成長する企業はあるのです。具体的には、一番増加率を高かめたのは日本電産でした。平成の時代に時価総額を約680億円から約4兆7,000億円にしています。なんと約70倍です。

コモンズ30ファンドは、時価総額を5倍以上にしたこの64銘柄中、8銘柄を約10年間投資し続けることが出来ています。ユニ・チャームが20倍、ダイキンが15倍、SMCが13倍、東京エレクトロンが11倍、信越化学が9倍、堀場製作所が8倍、マキタが5倍へと平成時代に時価総額を拡大しました。令和時代の先行きは不透明ですが、どんな時代でも事業を取り巻く外部環境の変化をも乗り越えられる一握りの企業を見つけ、その企業の長期的な成長に寄り添う長期投資が出来てこそ、大きな資産をつくる事が出来るはずで、これが本格的な長期投資の醍醐味です。

「コモンズ30ファンド」は、多くの投資先企業のグローバルな事業展開を通じて、世界の成長を家計の金融資産に取り込むことで、資産を長期的に成長させていくファンドと考えています。

引き続き、皆さまのお役にたてるように時代の変化をも乗り越える企業への投資を丹念に続けてまいります。よろしく願い申し上げます。

コモンズ投信株式会社
代表取締役社長兼最高運用責任者
伊井哲朗

目次

実績

- 最近5期の運用実績…………… 1
- 当期中の基準価額と市況等の推移…………… 1

概況

- 運用経過…………… 2
- 分配金について…………… 11
- 今後の運用方針…………… 11

詳細

- 1万口当たりの費用明細…………… 12
- 売買および取引の状況…………… 14
- 親投資信託受益証券の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合…………… 14
- 主要な売買銘柄…………… 15
- 利害関係人との取引状況等…………… 15
- 組入資産の明細…………… 15
- 投資信託財産の構成…………… 15
- 資産、負債、元本および基準価額の状況…………… 16
- 損益の状況…………… 16
- お知らせ…………… 16
- 寄付についてのご報告…………… 17

ご参考

- コモンズ30マザーファンド…………… 19

●最近5期の運用実績

| 決算期 | 基準価額 | | | 参考指数 | | 株式組入比率 | 純資産総額 |
|-----------------|--------|------------|-----------|------------|-----------|--------|--------|
| | (分配落) | 税込み 分配金 | 期中 騰落率 | (TOPIX配当込) | 期中 騰落率 | | |
| | 円 | 円 | % | | % | % | 百万円 |
| 7期(2016年1月18日) | 20,996 | 0 | △ 0.7 | 1,935.53 | 3.1 | 98.2 | 7,181 |
| 8期(2017年1月18日) | 24,102 | 240 | 15.9 | 2,157.80 | 11.5 | 98.3 | 8,669 |
| 9期(2018年1月18日) | 30,972 | 250 | 29.5 | 2,732.10 | 26.6 | 92.4 | 12,945 |
| 10期(2019年1月18日) | 26,053 | 0 | △15.9 | 2,317.60 | △15.2 | 98.8 | 14,258 |
| 11期(2020年1月20日) | 29,903 | 250 | 15.7 | 2,660.70 | 14.8 | 95.2 | 18,842 |

(注) 基準価額の騰落率は分配金込み。

(注) 当ファンドは親投資信託を組み入れますので、「株式組入比率」は実質組入比率を記載しております。以下、同じです。

(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

(注) TOPIX：東証株価指数（東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数）

●当期中の基準価額と市況等の推移

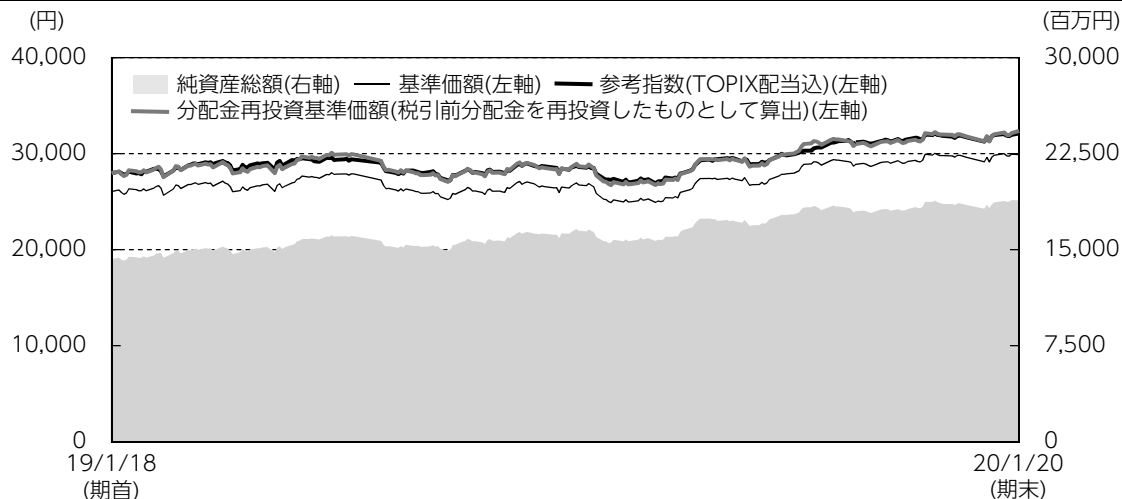
| 年月日 | 基準価額 | | 参考指数 | | 株式組入比率 |
|------------|--------|-------|------------|-------|--------|
| | | 騰落率 | (TOPIX配当込) | 騰落率 | |
| (期首) | 円 | % | | % | % |
| 2019年1月18日 | 26,053 | — | 2,317.60 | — | 98.8 |
| 1月末 | 26,336 | 1.1 | 2,332.52 | 0.6 | 94.3 |
| 2月末 | 26,608 | 2.1 | 2,393.08 | 3.3 | 92.2 |
| 3月末 | 26,601 | 2.1 | 2,395.21 | 3.3 | 90.4 |
| 4月末 | 27,876 | 7.0 | 2,434.82 | 5.1 | 90.0 |
| 5月末 | 25,494 | △ 2.1 | 2,275.96 | △ 1.8 | 94.7 |
| 6月末 | 26,368 | 1.2 | 2,338.89 | 0.9 | 92.3 |
| 7月末 | 26,702 | 2.5 | 2,360.18 | 1.8 | 96.8 |
| 8月末 | 25,420 | △ 2.4 | 2,280.58 | △ 1.6 | 95.0 |
| 9月末 | 27,175 | 4.3 | 2,418.29 | 4.3 | 92.2 |
| 10月末 | 29,013 | 11.4 | 2,539.02 | 9.6 | 93.8 |
| 11月末 | 28,994 | 11.3 | 2,588.40 | 11.7 | 95.3 |
| 12月末 | 29,600 | 13.6 | 2,625.91 | 13.3 | 96.0 |
| (期末) | | | | | |
| 2020年1月20日 | 30,153 | 15.7 | 2,660.70 | 14.8 | 95.2 |

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は期首比です。

運用経過

■基準価額等の推移について

(2019年1月19日～2020年1月20日)



第11期首：26,053円

第11期末：29,903円 (既払分配金250円)

騰落率：15.7% (分配金再投資ベース)

(注) 分配金再投資基準価額は分配金(税引前)を分配時に再投資したものと仮定して計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

(注) ファンドの購入価額により課税条件が異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注) それぞれの基準価額は1万口当たりで表記しています。

(注) 当ファンドにはベンチマークはありません。参考指数(TOPIX配当込)は、投資対象資産の市場動向を説明する代表的な指数として記載しており、期首の値をファンドの分配金再投資基準価額と同一になるよう指数化しています。

(注) TOPIX：東証株価指数(東証市場第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数)

■基準価額の主な変動要因

基準価額は期首に比べ15.7%の上昇となりました。

なお、詳細については、P5「投資環境および運用経過について」にてご説明いたします。

■ファンドの特色とポートフォリオについて

当ファンドは、世代を超えて進化を続ける“強い企業”、約30社に長期集中投資を行います。

(ファンドの設計にあたって)

「現役と次世代の生活者にとっての豊かな社会を導く長期投資」、及び「企業の持続的な成長と価値創造を応援する長期資本」を育むことを目的としてファンドを設計しました。

(ファンドの特色)

I. 30年目線の長期的な視点で銘柄選択を行います

企業を取り巻く環境の不確実性が増しています。それに伴い株式市場の振幅も増大する傾向にあります。こうした先行き不透明な時代において、短期的な株価の変動を追いかけてリターンを積み上げていくことは困難です。一方で、こうした時代でも事業環境の変化に対応し、進化を続ける一握りの超優良な企業は存在します。また、受益者が長期的な資産形成を行うために、企業の長期的な価値創造に参加することは有力な手段の一つと考えています。

当社は、短期的な業績や株価の変動にとらわれず、長期的な視点において下記の【5つの軸～4つの「力」(収益力、競争力、経営力、対話力)と企業文化～】を切り口に丹念な企業調査をもとに銘柄選択を行います。

○コモンズ30ファンドの銘柄選択のポイント

○5つの軸～4つの「力」と企業文化～

【見える価値＝財務情報】

「収益力」

営業利益率、ROEなどの財務的価値に優れ、長期的な成長または安定が見込まれる。配当など資本政策に対して明確な方針を持つ。

【見えない価値＝非財務情報】

「競争力」

競争力の源泉を理解し、その強さを支えるビジネスモデルを磨き続けている。技術やサービスの開発、市場の開拓にも積極的に取り組んでいる。

「経営力」

経営トップが長期的な企業価値向上に対する意識が高く、それを支える持続的な経営体制の高度化に取り組み、社外取締役、株主など外部からの知見も経営に反映している。

「対話力」

顧客、社員、取引先、株主、社会などステークホルダーとの対話姿勢を重視している。対話を通じた持続的な価値創造に取り組んでいる。

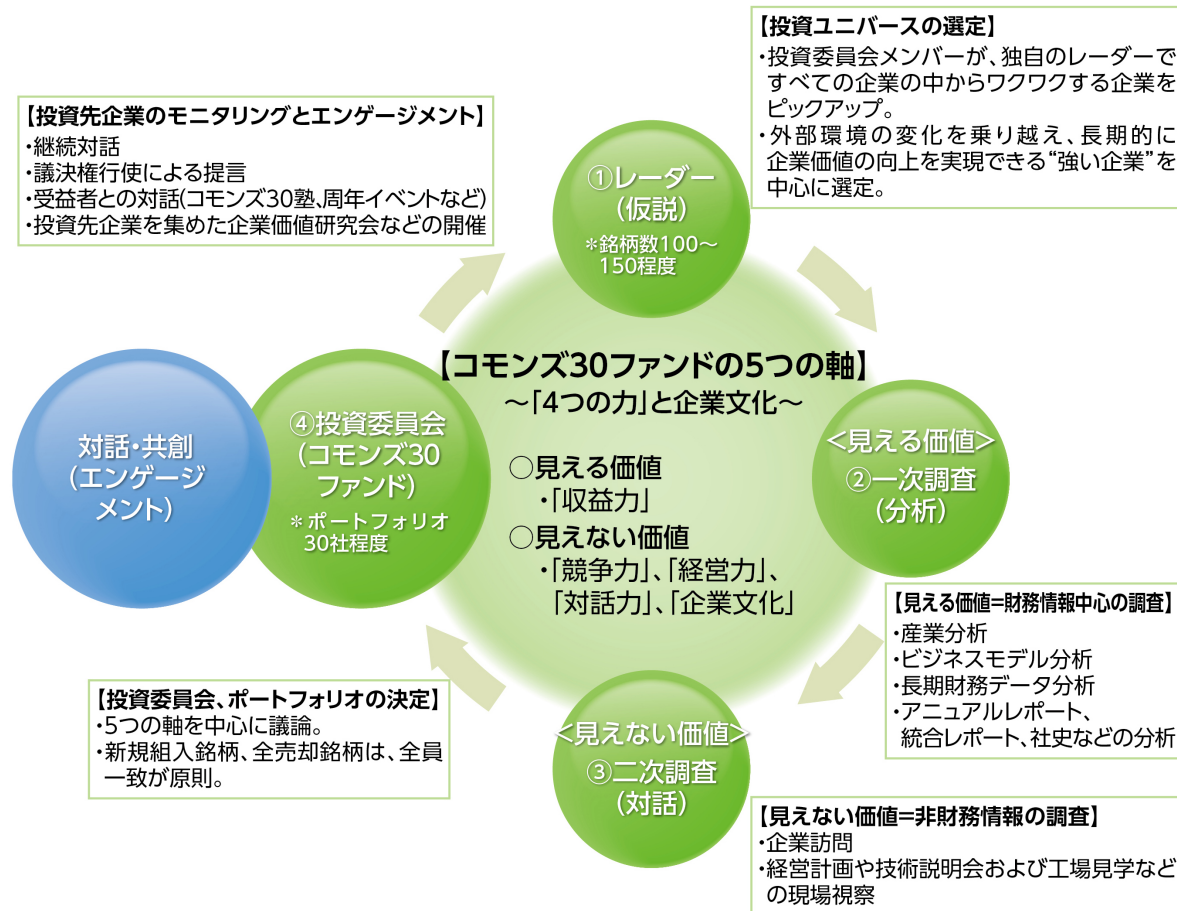
「企業文化」

明確に定義された企業理念・価値観を組織内に共有し、浸透させることで具体的な行動に結びつけている。企業文化が、組織横断的な横串となり組織力を高めている。

II. 30銘柄程度への集中投資で高い運用成果を狙います

事業環境の変化が激しく、グローバルな競争も厳しい時代では、企業の優勝劣敗も加速します。こうした環境下で多くの企業に投資をすることは日本企業の平均値を求めていくことにもつながり高い運用成果は望めないと考えています。当ファンドでは、約3700社の上場企業の中から長期的に成長が可能と判断したわずか1%未満の30社程度に投資をすることで、高い運用成果を目指しています。

■マザーファンドにおける投資対象選定のプロセス



Ⅲ. 対話による価値創造に取り組みます

当社は、創業時より対話を重視してきました。企業に対しては、経営と株主を対立軸として捉えるのではなく、30年目線という長期の時間軸に基づき、経営と株主が同じ方向の視線で、対話を通じて持続性ある価値創造に取り組むことを目指しています。さらに、生活者であり最終消費者でもあるお客さま（受益者）と投資先企業との対話（企業訪問、セミナーなど）にも積極的に取り組んでいます。企業の価値創造の主役は、経営者と従業員および商品やサービスを評価して購入する生活者=最終消費者であり、当社は、投資家として企業の価値創造に貢献するとともに、最終消費者でもある受益者の参加による企業の価値創造も促進していきたいと考えています。

■投資環境および運用経過について

◎市況（外部環境）と期中の投資行動について（投資行動および組入銘柄についてはマザーファンドについての記載となります）

（2019年1月～3月）

2019年1～3月期の内外金融市場は、昨年秋から年末にかけての世界的な株安からの戻りを試す四半期となりました。特に、世界的な景気減速懸念を受けて、FRB（米国連邦準備制度理事会）が金融引き締めスタンスを大きく軟化させてことを株式市場は好感しました。ただ、引き続き、米中貿易摩擦問題や英国のEU離脱問題の行方は不透明な状況が続き、さらにトルコの信用不安なども顕在化するなど力強い戻り相場とは言えない展開となりました。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込が7.74%、日経平均株価で5.95%の上昇となる中、コモンズ30ファンドは7.15%の上昇となりました。同期間、個別銘柄では、米国ライドシェア大手のリフトの上場が注目され筆頭株主である楽天も人気化し42.39%の上昇となりました。さらに、堀場製作所36.97%、東京エレクトロン27.85%など半導体関連銘柄の反発も顕著でした。一方で、下落率が大きかった銘柄では、バイオジェン社と共同開発中であったアルツハイマー治療薬の開発中止の発表があったエーザイ▲26.92%、セブン&アイ・HD▲12.69%となりました。

この間、新規銘柄の組入も、ポートフォリオから除外する銘柄もなく、3月末のポートフォリオ構成銘柄は引き続き30銘柄となりました。ただ、市場の不確実性が増したと判断し、株式組入比率は90.2%に抑え、現金比率を高めています。

さて、当期間中の企業との対話では、2月に「コモンズ30塾」を開催し、デンソーを招いての「統合レポートワークショップ」を行いました。詳しくはこちらからセミナーレポートをご覧ください（<https://park.common30.jp/2019/02/1.html>）。

今回、参加者の多くの方が話題にしたのは、有馬社長のトップメッセージにあった「社会のみなさまに心の底から共感していただける会社となるために、デンソーは生まれ変わります。」という部分でした。“生まれ変わる”という言葉に、時代の変化の中で更なる飛躍に向けて力強く歩む決意がレポートを通じて伝わりました。コモンズ流対話では、こうした投資先企業の「見える化」が、お互いの「気づき」となり価値共創につながっていくと考えています。

（2019年4月～6月）

2019年4～6月期の内外金融市場は、米中の貿易摩擦問題に振らされる展開となりました。4月は、米中問題の進展期待と中国の景気ボトムを確認することで株価上昇、5月は一転して米国トランプ大統領のツイッターでの発言を契機に、米中問題の悪化懸念とファーウェイへの制裁で世界的な景気減速を織り込む形で株価下落、6月は一転してG20での米中首脳会談への期待と米国の利下げ期待から株式市場は上昇しました。まさに目まぐるしい展開でしたが、この間、米国S&P500やインド、ブラジルでは株価指数が史上最高値を更新しました。一方で、国内株式市場は、ドル円が106円台をつけて円高に振れたことなどから重たい動きでした。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込が▲2.35%の下落、日経平均株価が0.33%の上昇となる中、コモンズ30ファンドは▲0.88%の下落となりました。同期間、個別銘柄では、前四半期に続き楽天が上昇率トップで22.14%の上昇となりました。さらに、東レ15.89%、ディスコ12.11%、クボタ12.10%、日立製作所10.15%を加えた5銘柄が10%以上の上昇となりました。一方で、下落率が大きかった銘柄では、ヤマトHDが▲23.36%、ベネッセHD▲12.77%、セブン&アイ・HD▲12.64%と内需関連銘柄の下落が目立ちました。

この間、新規銘柄の組入も、ポートフォリオから除外する銘柄もなく、6月末のポートフォリオ構成銘柄は引き続き30銘柄となりました。ただ、不確実な政治的な要因などから、引き続き保守的な運用を心がけ、株式組入比率は91.8%に抑えて現金比率を高めています。

さて、当期間中の企業との対話では、3・4月に京都・東京で10周年イベントを開催し、堀場製作所の堀場会長兼グループCEO、ベネッセHDの安達社長、IR担当者ではシスメックス、旭化成、エーザイ、東京エレクトロンの4社に御登壇いただきました。いずれも10年近く投資を続けていただいています。500名を超える方々に参加申し込みをいただき、まさに、投資家（受益者）と投資先企業、コモンズSEEDCap寄付先と当社が一体となって「未来を信じる力」を体現する機会となりました。

イベントレポートはこちらをご覧ください。

<https://www.common30.jp/10th/>

(2019年7～9月)

2019年7～9月期の内外金融市場は、引き続き米中の貿易摩擦問題に一喜一憂する展開となりました。7月は米国の利下げ期待の高まり、日欧の緩和姿勢の明確化に加え、豪州、インドネシア、ブラジルなど新興国での利下げもあり、世界的な株高となりました。特に米国はNYダウが節目の27,000ドルを突破するなど主要指数が揃って史上最高値を更新する展開となりました。8月は一転し、米国トランプ大統領の中国への追加関税第4弾の示唆による米中の対立激化、イタリアでの政局混迷、英国の合意なきEU離脱懸念、アルゼンチンショックなどが市場心理を冷やし世界的な株安につながりました。国内株式市場では、ドル円で104円台に入る局面もあり、円高による企業業績に対する不透明感も高まりました。9月は再び局面が変わり米中協議再開と欧米の金融緩和などから世界的な株高となりました。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込が3.39%の上昇、日経平均株価が2.26%の上昇となる中、コモンズ30ファンドは3.06%の上昇となりました。同期間、個別銘柄では、半導体関連の企業の上昇が目立ち、東京エレクトロンが上昇率トップで36.01%の上昇となりました。さらに、カクコム27.79%、ディスコ15.72%、信越化学15.20%が続き8銘柄が10%以上の上昇となりました。一方で、下落率が大きかった銘柄では、ヤマトHDが▲25.79%、楽天▲16.80%、エーザイ▲9.85%となりました。

この間、新規銘柄の組入も、ポートフォリオから除外する銘柄もなく、9月末のポートフォリオ構成銘柄は引き続き30銘柄となりました。ただ、不確実な政治的な要因などから、引き続き保守的な運用を心がけ、株式組入比率は92.0%と現金比率を高めに維持しています。

さて、当期間中の企業との対話では、「セブン&アイ・HD」、「デンソー」、「ダイキン工業」（開催順）との対話を実施しました。夏休み期間中ということもあり、親子で投資先の施設を訪問し、説明

を受けたり体験したり、そしてこども投資委員会を開きました。こども投資委員会では、3社とも社会に必要な企業であることから投資継続との判断に至りました。また、コモンズ30塾では「セブン&アイ・HD」と日本環境設計をお招きして『脱プラスチック』をテーマに様々な議論を行いました。

イベントレポートはこちら：<https://park.common30.jp/2019/08/30green-challenge-2050hg.html>

こどもトラスト企業訪問レポートはこちら：<https://park.common30.jp/2019/08/blog-post.html>

(2019年10～12月)

2019年10～12月期の内外金融市場は、これまで金融市場を圧迫してきたグローバルな不確実性が一時的に複数解消してきたことで、世界的な株高となりました。米中貿易摩擦問題の好転、英国の総選挙での保守党の大勝、先進国中央銀行の緩和的な金融政策の継続の確認、欧州と中国の景気回復期待などがその要因です。こうした背景から世界景気回復期待が高まり、景気敏感株が好調でした。

当四半期では、TOPIX（東証株価指数）配当込が8.59%の上昇、日経平均株価が8.74%の上昇となる中、コモンズ30ファンドは8.92%の上昇となりました。同期間、個別銘柄では、アルツハイマー病治療薬の開発進展のニュースからエーザイが上昇率トップで49.41%の上昇となりました。さらに、ディスコ26.59%、日揮HD24.20%、日東電工18.75%が続き13銘柄が10%以上の上昇となりました。一方で、下落率が大きかった銘柄では、楽天が▲12.21%、味の素▲11.03%、資生堂▲9.82%となりました。これで当ファンドの2019年の年間騰落率は19.23%となり、同期間のTOPIX（東証株価指数；配当込）の18.12%、日経平均株価の18.20%を上回る実績となりました。年間の騰落率では、ディスコ101.56%、東京エレクトロン91.17%、堀場製作所63.25%と半導体関連銘柄が好調でした。

この間、新規銘柄の組入も、ポートフォリオから除外する銘柄もなく、12月末のポートフォリオ構成銘柄は引き続き30銘柄となりました。引き続き、慎重な運用スタンスでしたが、株式組入比率は95.5%と徐々に組入れ比率を上げていきました。

さて、当期間中の企業との対話では、コモンズ30塾に「ダイキン工業」をお招きして、サスティナビリティレポートを読み解くワークショップを開催しました。同社が策定した「環境長期ビジョン2050」では「温室効果ガス排出実質ゼロをめざしながら安心して健康な空気空間を提供」という目標を掲げています。製品の省エネ化/エネルギーマネジメントによる建物と一体となった省エネや再生可能エネルギーの効率的運用/市場での冷媒転換や回収・再生、森林保全などです。レポートでは、短中期・長期で具体的な取組について紹介され、参加されたお客さまからはさまざまな視点からの意見が出されました。

◎投資先企業

コモンズ30の当期末における投資先は以下の30社です（証券コード順）。

各企業の特長について、簡単にご紹介いたします。

| 銘柄 | 銘柄選択の視点 |
|---------------------------|---|
| 日揮ホールディングス (1963) | 世界約70カ国、2万件以上のプロジェクト実績があり、他社に先駆けて海外展開しました。オイルメジャー、新興国からの絶大な信頼で、世界のエネルギー需要に貢献しています。 |
| カカクコム (2371) | 価格.com（家電比較サイト）、食べログ（レストラン口コミサイト）など、サイトを複数運営しています。今後も、インターネットユーザーの利便性を最重視し、旅行、不動産、映画など、新規領域での事業開発が期待されます。 |
| 味の素 (2802) | 日本の昆布だしから抽出した「うま味」を発見、世界の食文化に合わせた、調味料や加工・冷凍食品、飲料などを提供しています。2050年の世界人口90億人時代を見据え、東南アジア、中南米、アフリカで販売ネットワークを構築、ネスレ、ユニリーバ、ダノンを追いかけています。 |
| セブン&アイ・ホールディングス (3382) | 変化への対応、基本の徹底という企業文化が浸透しており、セブンイレブンの卓越したマーケティング戦略、北米など海外戦略でさらなる高みを目指しています。コンビニの中で、同社にぴったりくる表現として、「ダントツセブン」、「流通革命の中で、良いポジショニング」という感じです。 |
| 東レ (3402) | レーヨンの生産から始まり、多角化しながら発展。繊維での縫製品事業や炭素繊維複合材料は顧客との強いコネクションを持ち、高い成長が期待されます。自前主義にはこだわらず、M&Aやアライアンスにも積極的。先端材料No.1企業目指し邁進しています。 |
| クラレ (3405) | 高度な製造技術が求められ、他社が真似し難い製品を作っています。液晶の偏光板に用いられるポバールフィルム、自動車用ガソリンタンクに用いられるエパールなどでは、圧倒的なシェアを誇ります。 |
| 旭化成 (3407) | 化学繊維事業から医薬・エレクトロニクス事業へ事業構成の転換により、収益性の向上を目指しています。同社名誉フェローの吉野彰氏がノーベル化学賞を受賞したように先進的な開発に取り組む文化を持っており、人工腎臓やリチウム二次電池用セパレーターなどは世界トップクラスです。 |
| 信越化学工業 (4063) | 収益に対しての執着心が強く、強いポジションを築いています。塩化ビニルなどの汎用品と、半導体シリコンウエハなどの先端テクノロジーの双方で高いシェアを獲得しています。 |
| エーザイ (4523) | 世界的に競争力のある創薬メーカーです。企業理念の定款への記載や、役員選任理由を明確にした200ページ近くにわたる株主総会招集通知の作成などガバナンスの基本観がとてもしっかりしています。 |
| 楽天 (4755) | 社内公用語の英語化、海外企業買収など、成長に向けた強い意欲が際立ちます。社員による店舗サポートが強みで、理念の共有、教育等の人的資産投資を積極的に行っています。 |
| 資生堂 (4911) | 巨大市場の中国、アジアで認められた美の感性、アジア人の肌を知り尽くした技術、おもてなしの心（接客力）が成長の牽引力となっています。 |
| リンナイ (5947) | 給湯、暖房のトップメーカーです。製品デザインの刷新、製販一体の全員経営、経営の見える化などの経営革新の成果が現れています。創業期より海外展開を行っており、インドネシア、ブラジル、オーストラリアなどでも強いブランドを築いています。 |

コモンズ30ファンド

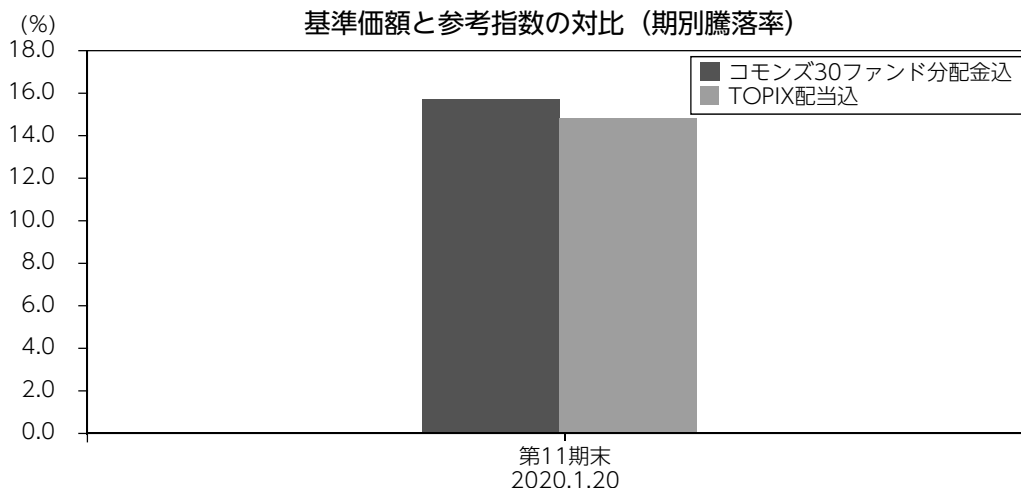
| 銘 柄 | 銘 柄 選 択 の 視 点 |
|------------------|---|
| ディスコ (6146) | 半導体やLEDの製造に欠かせないグラインダーやダイサーなどを製造しています。「誰が正しいかではなく、何が正しいか」などディスコバリューで、自社の経営体制も磨き続けています。 |
| SMC (6273) | 工場の自動化に不可欠な空気圧機器で世界シェアトップです。強固な販売力を有し、自動車、電機、機械向けから、医療および食品関連にも自動化の需要が広がっています。 |
| コマツ (6301) | 多角化の失敗から学ぶ姿勢、キャタピラーに並ぶ競争力、それを支えるコマツウエイ（文化）、建設機械をインターネットに繋ぐ新しいビジネスモデルが強みです。 |
| クボタ (6326) | 長期的に世界の食糧需要が増加するなか、世界の競合企業に比べて、水田用、中小型の農機で高い競争力を持っています。今後は、特にアジアでの成長が期待されます。 |
| ダイキン工業 (6367) | 世界に誇る日本の省エネ技術、強い販売力、優れた商品力が競争力の源泉であり、アフターケアとメンテナンスを絡めた総合力も抜群です。 |
| 日立製作所 (6501) | 2008年度の巨額赤字後、マネジメントの強力なリーダーシップで進められた構造改革で強靱な組織になり、収益体質も強化。「インフラとITをつないで、世の中を便利にする」をモットーに、グローバルでの展開を加速。重視する「ダイバーシティ」が、成長の大きな武器となります。 |
| マキタ (6586) | リチウムイオン電池など、軽量・低振動で使用者の健康に配慮をした製品開発を行い、利用時間が長いプロ向けで高いシェアを獲得しています。ものづくりだけでなく、保守メンテナンス体制も充実しており、先進国では原則3日で対応可能な修理体制を構築しています。 |
| 堀場製作所 (6856) | 創業者経営哲学「おもしろおかしく」を継承し、国際展開、自動車用から科学（研究）用、半導体用、現在の医療用まで、時代に応じて事業分野を拡大中です。ニッチ市場で高いシェアを誇り、事業分散と地域分散を組み合わせたマトリックス経営をしています。買取・提携も巧みです。 |
| シスメックス (6869) | 血液検査機器では、国内No.1、世界トップ10クラス、特に血球計数分野では世界No.1の実力を誇ります。更に、赤血球分析から免疫、DNAへ、大学、研究機関、病院を顧客に急発展し、サステナブル企業として成長を続けています。 |
| デンソー (6902) | 1949年にトヨタ自動車から分離独立し「日本電装」として創業。自動車市場の拡大や自動車のモジュール化（複数の機能をまとめた部品にすること）などが追い風となります。今後の成長が期待される自動運転では、ソフトウェア開発に注力するとともに、技術力を武器に強みを発揮していく見込みです。 |
| 日東電工 (6988) | 成長が期待される環境や医療向けなどに事業領域を柔軟に変化させながら、固有の技術をベースに、シートやフィルムに付加価値を加えた製品で成長しています。それぞれの地域ごとに品質や価格を調整し、シェアの獲得を目指しています。 |
| ホンダ (7267) | お客さまに自動車のみならず、夢の詰まったモビリティ（移動体）を適正価格で提供します。歴史的に難局に強く、創業から脈々と流れるチャレンジ精神で、持続可能な成長を遂げています。 |
| 丸紅 (8002) | 相対的に資源比率が低いことが特徴の一つです。バリューチェーンを構築し、景気の影響を受けにくいトレーディングなど、安定した収益体制を確立しています。特に、食料（穀物）、電力（新興国での発電）などの事業領域に強みを持っています。 |

| 銘 柄 | 銘 柄 選 択 の 視 点 |
|------------------------|---|
| 東京エレクトロン (8035) | 「医療や環境、新しい産業の未来を考えると半導体チップの将来は無限」との発想で、商社から出発、今や世界トップの半導体製造装置メーカーであるアプライドマテリアルズの背中まで迫っています。経営はクレドの心温まるメッセージでけん引。愚直で本質的な挑戦を続けています。 |
| 三菱商事 (8058) | 企業理念の「三綱領」をベースに、長期持続的成長を意識した経営を志向しています。事業に投資するだけでなく、事業の中に入り、三菱商事の強みや機能を提供することで投資先の成長に貢献する「事業経営」を目指します。 |
| ユニ・チャーム (8113) | これまで培ってきたマーケティング力を生かし、新興国ではベビーケアやフェミニンケアで、先進国では大人用紙おむつなどのヘルスケアでの成長を目指しています。経営の仕組み化や、他社から学び継続的改善をおこなっていることは、強みの一つです。 |
| ヤマトホールディングス (9064) | 「クロネコヤマトの宅急便」で親しまれる宅配便業界のトップ。大型物流拠点を構築、電子商取引業者からの需要、B2B（企業間）の物流需要の取り込みなど総合物流企業へと変貌していきます。 |
| ベネッセホールディングス (9783) | 日本の通信教育事業において、圧倒的なシェアを誇ります。国内教育事業で培った知恵を用い、海外展開（台湾、中国）と事業領域拡大（介護、語学）で、変化し続ける環境を乗り越えて成長を目指しています。 |

■ベンチマークとの差異について

当ファンドは運用の目標となるベンチマークを設けておりません。

以下グラフは、当ファンドの基準価額と参考指数（TOPIX配当込）の騰落率の対比です。



分配金について

第11期の分配金は250円とさせていただきます。なお、分配については、毎決算時に、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案して決定します。また、留保益の運用については特に制限を設けず、委託会社の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

【分配原資の内訳】

(単位：円・%、1万口当たり・税引前)

| | | 当 期 |
|-----------|--|-----------------------|
| | | 2019年1月19日～2020年1月20日 |
| 当期分配金 | | 250 |
| (対基準価額比率) | | 0.829% |
| 当期の収益 | | 250 |
| 当期の収益以外 | | - |
| 翌期繰越分配対象額 | | 19,902 |

(注) 対基準価額比率は当期分配金(税込み)の期末基準価額(分配金込み)に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注) 当期の収益、当期の収益以外は小数点以下切捨てで算出しているため合計が当期分配金(税引前)と一致しない場合があります。

(注) -表示は該当がないことを示します。

今後の運用方針

<コモンズ30ファンド>

第12期(2020年1月21日～2021年1月18日)についても、第11期と同様の運用方針を継続いたします。

<コモンズ30マザーファンド>

私たちは、2020年の投資環境は、総じてリスク資産にフォローな状況と考えています。世界的に中央銀行の金融緩和姿勢が継続される見込みが強い中で、グローバルな景気回復を確認しながらの相場上昇をイメージしています。これまで金融市場を圧迫してきたグローバルな不確実性が2019年後半から相次いで後退しました。具体的には、米中貿易摩擦問題の好転、英国総選挙での保守党の大勝、欧州や中国景気の底入れ期待が顕在化してきました。この流れは、2020年も続くものと考えています。リスク要因としては、地政学的リスク、米国大統領選挙や英国のEU離脱の行方、原油価格の高騰、新型肺炎の影響などを意識しています。

こうした中、私たちは2020年を日本が大きく変わる節目の年と考えてきましたので、外部環境の変化に対応できる企業の選別を引き続き丹念に行っていきたいと考えています。また、新しい成長企業の発掘にも尽力して参ります。

引き続き、当ファンドにご期待ください。

● 1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 当 期 2019年1月19日～2020年1月20日 | | 項 目 の 概 要 |
|-------------------|------------------------------|---------|--|
| | 金 額 | 比 率 | |
| (a) 信 託 報 酬 | 295円 | 1.084% | (a)信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 ※期中の平均基準価額は27,182円です。 |
| （投 信 会 社） | (129) | (0.476) | 委託した資金の運用の対価 |
| （販 売 会 社） | (150) | (0.553) | 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 |
| （受 託 会 社） | (15) | (0.055) | 運用財産の管理、投信会社からの指図の実行の対価 |
| (b) 売 買 委 託 手 数 料 | 25 | 0.094 | (b)売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| （株 式） | (25) | (0.094) | |
| (c) そ の 他 費 用 | 15 | 0.055 | (c)その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 |
| （監 査 費 用 等） | (13) | (0.047) | ・ 監査費用等は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用および その他費用 |
| （そ の 他） | (2) | (0.008) | ・ その他は、金銭信託に係る手数料 |
| 合 計 | 335 | 1.233 | |

(注) 期中において発生した費用（消費税がかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。なお、売買委託手数料及びその他費用は、当ファンドが組み入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

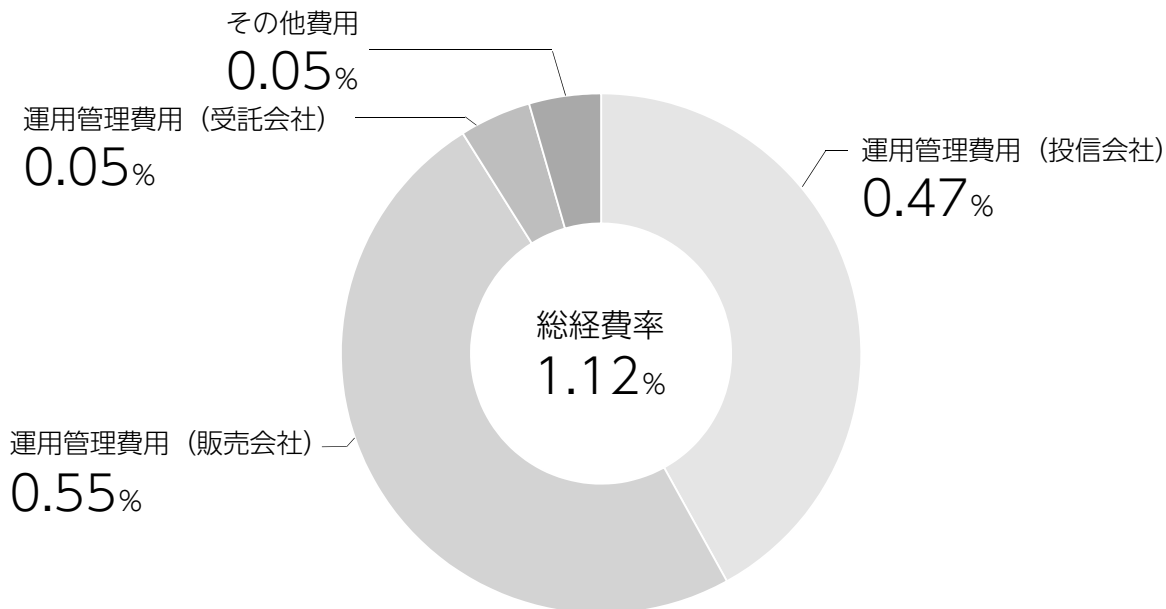
(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

■総経費率

当期中の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を期中の平均受益権口数に期中の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.12%です。



(注) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

●**売買および取引の状況** (2019年1月19日～2020年1月20日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

| | 設 定 | | 解 約 | |
|---------------|-----------------|-----------------|---------------|-----------------|
| | □ 数 | 金 額 | □ 数 | 金 額 |
| コモンズ30マザーファンド | 千口 1,622,351 | 千円 5,434,120 | 千口 984,002 | 千円 3,386,579 |

(注) 単位未満は切捨て。

●**親投資信託受益証券の株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合** (2019年1月19日～2020年1月20日)

| 項 目 | 当 期 |
|-------------------------------|---------------|
| | コモンズ30マザーファンド |
| (a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額 | 31,394,809千円 |
| (b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額 | 25,921,164千円 |
| (c) 売 買 高 比 率 (a)／(b) | 1.21 |

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●主要な売買銘柄 (2019年1月19日～2020年1月20日)

コモンズ30マザーファンドにおける株式の主な売買

| 買 付 | | | | 売 付 | | | |
|-----------------|-------|---------|--------|------------|-------|-----------|--------|
| 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 | 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 |
| | 千株 | 千円 | 円 | | 千株 | 千円 | 円 |
| クボタ | 542.1 | 876,584 | 1,617 | ディスコ | 60.4 | 1,091,205 | 18,066 |
| ヤマトホールディングス | 368.5 | 772,293 | 2,095 | カカクコム | 388 | 935,851 | 2,411 |
| ディスコ | 42.2 | 739,914 | 17,533 | 東京エレクトロン | 48.9 | 826,213 | 16,895 |
| シスメックス | 99.5 | 678,078 | 6,814 | シスメックス | 115.8 | 807,155 | 6,970 |
| 資生堂 | 82.2 | 659,146 | 8,018 | 堀場製作所 | 122.5 | 707,952 | 5,779 |
| クラレ | 497.3 | 658,154 | 1,323 | 資生堂 | 86.1 | 672,445 | 7,810 |
| 楽天 | 631.6 | 646,506 | 1,023 | 楽天 | 590.2 | 615,187 | 1,042 |
| 日揮ホールディングス | 442.5 | 645,653 | 1,459 | クボタ | 352.7 | 594,850 | 1,686 |
| デンソー | 138.8 | 645,486 | 4,650 | 日揮ホールディングス | 367.6 | 592,471 | 1,611 |
| セブン&アイ・ホールディングス | 161.6 | 631,029 | 3,904 | 旭化成 | 487.3 | 568,783 | 1,167 |

(注) 金額は受渡し代金。

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●利害関係人との取引状況等 (2019年1月19日～2020年1月20日)

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細
親投資信託残高

2020年1月20日現在

| | 期首(前期末) | 当 期 末 | |
|---------------|-----------|-----------|------------|
| | □ 数 | □ 数 | 評 価 額 |
| | 千□ | 千□ | 千円 |
| コモンズ30マザーファンド | 4,474,195 | 5,112,544 | 19,128,073 |

(注) □数・評価額の単位未満は切捨て。

(注) 当期末におけるコモンズ30マザーファンド全体の口数は8,588,227千口です。

マザーファンドの組入資産の明細につきましては、マザーファンド頁をご参照ください。

●投資信託財産の構成

2020年1月20日現在

| 項 目 | 当 期 末 | |
|---------------|------------|-------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| | 千円 | % |
| コモンズ30マザーファンド | 19,128,073 | 99.9 |
| コール・ローン等、その他 | 15,793 | 0.1 |
| 投資信託財産総額 | 19,143,866 | 100.0 |

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年1月20日現在

| 項 目 | 当 期 末 |
|-----------------------|-----------------|
| (A) 資 産 | 19,143,866,555円 |
| コモンズ30マザーファンド(評価額) | 19,128,073,902 |
| 未 収 入 金 | 15,792,653 |
| (B) 負 債 | 301,233,107 |
| 未 払 収 益 分 配 金 | 157,532,958 |
| 未 払 解 約 金 | 44,170,845 |
| 未 払 信 託 報 酬 | 95,129,304 |
| そ の 他 未 払 費 用 | 4,400,000 |
| (C) 純 資 産 総 額 (A - B) | 18,842,633,448 |
| 元 本 | 6,301,318,349 |
| 次 期 繰 越 損 益 金 | 12,541,315,099 |
| (D) 受 益 権 総 口 数 | 6,301,318,349口 |
| 1万口当たり基準価額(C/D) | 29,903円 |

●損益の状況

(2019年1月19日～2020年1月20日)

| 項 目 | 当 期 |
|-----------------------|------------------|
| (A) 有 価 証 券 売 買 損 益 | 2,556,773,755円 |
| 売 買 益 | 2,799,144,913 |
| 売 買 損 | △ 242,371,158 |
| (B) 信 託 報 酬 等 | △ 183,403,831 |
| (C) 当 期 損 益 金 (A + B) | 2,373,369,924 |
| (D) 前 期 繰 越 損 益 金 | 643,158,004 |
| (E) 追 加 信 託 差 損 益 金 | 9,682,320,129 |
| (配 当 等 相 当 額) | (8,159,318,891) |
| (売 買 損 益 相 当 額) | (1,523,001,238) |
| (F) 計 (C + D + E) | 12,698,848,057 |
| (G) 収 益 分 配 金 | △ 157,532,958 |
| 次 期 繰 越 損 益 金 (F + G) | 12,541,315,099 |
| 追 加 信 託 差 損 益 金 | 9,682,320,129 |
| (配 当 等 相 当 額) | (8,167,210,774) |
| (売 買 損 益 相 当 額) | (1,515,109,355) |
| 分 配 準 備 積 立 金 | 2,858,994,970 |

(注) 期首元本額 5,472,831,928円
 期中追加設定元本額 2,000,277,634円
 期中一部解約元本額 1,171,791,213円

(注) 損益の状況の中で(A)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) 損益の状況の中で(B)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) 損益の状況の中で(E)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) 計算期間末における費用控除後の配当等収益(306,197,709円)、費用控除後の有価証券等損益額(92,972,959円)、信託約款に規定する収益調整金(9,682,320,129円)および分配準備積立金(2,617,357,260円)より分配対象収益は12,698,848,057円(10,000口当たり20,152円)であり、うち157,532,958円(10,000口当たり250円)を分配金額としております。

【お知らせ】

※2019年3月29日付で信託報酬の支弁に関する期日変更の約款変更を行いました。

●寄付についてのご報告

□第10回「コモンズSEEDCap（社会起業家応援プログラム）」について

この度、コモンズ投信の顧客、投資先、その他ステークホルダーと共に「一人ひとりの未来を信じる力を合わせて次の時代を共に拓く」という理念に基づく寄付プログラム、コモンズSEEDCap（社会起業家応援プログラム）の第10回応援先に 一般社団法人 WITH ALS代表 武藤 将胤（まさむね）さんを選定いたしましたので以下にお知らせいたします。

武藤氏は2013年に難病 ALS（筋萎縮性側索硬化症）を発症しました。ALSは体を動かす運動神経が老化し、徐々に動かなくなっていく難病です。世界で35万人、日本には約1万人の患者がいるとされるALS患者のおかれた現状を、自身の体験を通じて、ALSの課題解決を起点に、全ての人々が自分らしく挑戦出来るボーダレスな社会を創造する事を目指しWITH ALSの活動を行っています。

2018年社会起業家フォーラムの登壇をお願いした際には、病状や体調によっては、登壇が難しくなる可能性も考えられました。しかし、本番当日、ひとつひとつの言葉を懸命に丁寧に絞り出すように、また、ときにユーモアを交えながら7分間のスピーチをやり切った武藤さんの「あきらめない姿勢」は、参加者に多くの気づきと勇気を与えました。

<https://youtu.be/AEhI5nuvmWo>

『NO LIMIT YOUR LIFE』

障害の有無にかかわらず、自らの人生に限界をつくらない、そんな生き方に心動かされた方から多くの推薦の声が寄せられました。そして最終選考委員会において、武藤氏の存在自体が、コモンズ投信の理念の中核である「未来を信じる力」を象徴しているということで、コモンズ SEEDCap応援先にふさわしいという結論となりました。

詳しくはこちらのプレスリリースをご覧ください。

<https://www.common30.jp/files/uploads/NewsRelease10SEEDCap-re.pdf>

2019年10月5日（土）開催の第11回コモンズ社会起業家フォーラムにて授賞式を行い、寄付金額101万円を同団体に寄付させていただきました。

ALSの課題解決を起点に全ての人々が自分らしく挑戦できるボーダレスな社会を共に創っていくことに期待しています。

以下、武藤 将胤（まさむね）さんからのメッセージです。

～メッセージ～

この度、様々な社会課題解決に取り組んでいる団体の中で、SEEDCapの寄付先に、私達WITH ALSを選んでいただき、本当に光栄で感謝の気持ちで一杯です。

WITH ALSはALSをはじめとするハンディキャップを抱えた人たちの可能性を広げながら、誰もが垣根なくワクワクすることができるボーダレスな体験を、エンターテインメント・テクノロジー・ヒューマンケアの分野で創出していく挑戦をしています。

今回ご寄付頂きました寄付金は、私達がエンターテインメント、テクノロジーの分野で取り組んでいる、脳波の意思伝達装置のプロジェクト開発費、そしてそのテクノロジーを使ってエンターテインメントの形で、披露するイベント費用に充てさせて頂きました。

脳は正常なまま全身が動かなくなり、意思疎通が困難になるALS。

最終的な段階として、眼球を動かす筋肉さえも失ってしまうTLS=(完全な閉じ込め状態)となります。

最後の希望となる脳波でのコミュニケーションを実現する第1歩として、WITH ALSの得意領域である、エンターテインメントを融合させ、自身が伝えたい言葉を脳波で選択しラッパーと共に音楽で届けるBRAIN RAPIに挑戦し、イベントで初披露させて頂きました。

ご来場頂いた方からは「勇気をもらった」、「自分も限界を作らず挑戦していきたい」などといった、ポジティブな声を頂く事ができました。本当に有難うございます。

皆さまからのあたたかなエールを胸に、これからもALSの課題解決を起点に、全ての人が自分らしく挑戦できるボーダレスな社会を創造して参ります。

最後になりますが、皆様を通じて、ALSの認知、理解を拡げ、継続的な支援の輪が広がっていく事を願っております。

2014年に流行した、頭から氷水をかぶる、ALSの支援活動である、アイスバケツチャレンジから約5年が経ち、多額の寄付金によって、ALS治療薬の研究にも希望の光が少しずつ見えてきました。ただ残念ながら、アイスバケツチャレンジの運動自体は一過性で終わってしまいました。現在、未だにこの病気の治療方法は確立されておらず、ALSとの闘いは決して終わっていません。

1日でも早くALSが治る未来を作れるよう、そしてALSをはじめとする、障がいを抱えた方が自分らしく挑戦し続けられるように、我々はボーダレスな社会を創造すべく活動を行ってまいりますので、WITH ALSへの継続的なご支援のご協力をよろしくお願い致します。

2020年1月27日
一般社団法人 WITH ALS
代表 武藤 将胤

コモンズ30マザーファンド

<第11期>：2020年1月20日

計算期間：2019年1月19日～2020年1月20日

「コモンズ30マザーファンド」は、第11期の決算を行いました。
以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第11期の運用状況をご報告申し上げます。

| | |
|--------|---|
| 運用方針 | <p>①主として、国内外の金融商品取引所に上場（これに準ずるものを含みます。）している株式の中から、投資対象選定の基準に照らして優良と判断した企業に投資します。</p> <p>②ベンチマークは設けず30銘柄程度に厳選投資を行い、原則として短期的な銘柄入れ替えは行わず長期保有することを基本とします。</p> <p>③株式の組入比率は、市場環境に応じて、投資信託財産総額の30%以上を基本とします。</p> <p>④市況動向に急激な変化が生じたとき、ならびに残存信託期間、残存元本が運用に支障をきたす水準になったとき等やむを得ない事情が発生した場合には、上記のような運用ができない場合があります。</p> |
| 主要運用対象 | 国内外の金融商品取引所に上場されている株式を主要投資対象とします。 |
| 主な組入制限 | <ul style="list-style-type: none">・株式への投資割合には、制限を設けません。・投資信託証券（上場投資信託証券等を除きます。）への投資割合は、投資信託財産の純資産総額の5%以内とします。・外貨建資産への投資割合には、制限を設けません。・一般社団法人投資信託協会規則に定める一の者に対する株式等エクスポージャー、債券等エクスポージャーおよびデリバティブ等エクスポージャーの信託財産の純資産総額に対する比率は、原則として、それぞれ100分の10、合計で100分の20を超えないものとします。 |

●最近5期の運用実績

| 決 算 期 | 基準価額 | 期 中 騰落率 | 参考指数 (TOPIX配当込) | | 株 式 組入比率 | 純資産 総 額 |
|-----------------|--------|------------|--------------------|------------|-------------|------------|
| | | | | 期 中 騰落率 | | |
| | 円 | % | | % | % | 百万円 |
| 7期(2016年1月18日) | 24,424 | 0.6 | 1,935.53 | 3.1 | 97.9 | 13,206 |
| 8期(2017年1月18日) | 28,671 | 17.4 | 2,157.80 | 11.5 | 96.7 | 20,952 |
| 9期(2018年1月18日) | 37,583 | 31.1 | 2,732.10 | 26.6 | 91.4 | 25,472 |
| 10期(2019年1月18日) | 31,994 | △14.9 | 2,317.60 | △15.2 | 98.4 | 25,141 |
| 11期(2020年1月20日) | 37,414 | 16.9 | 2,660.70 | 14.8 | 93.7 | 32,131 |

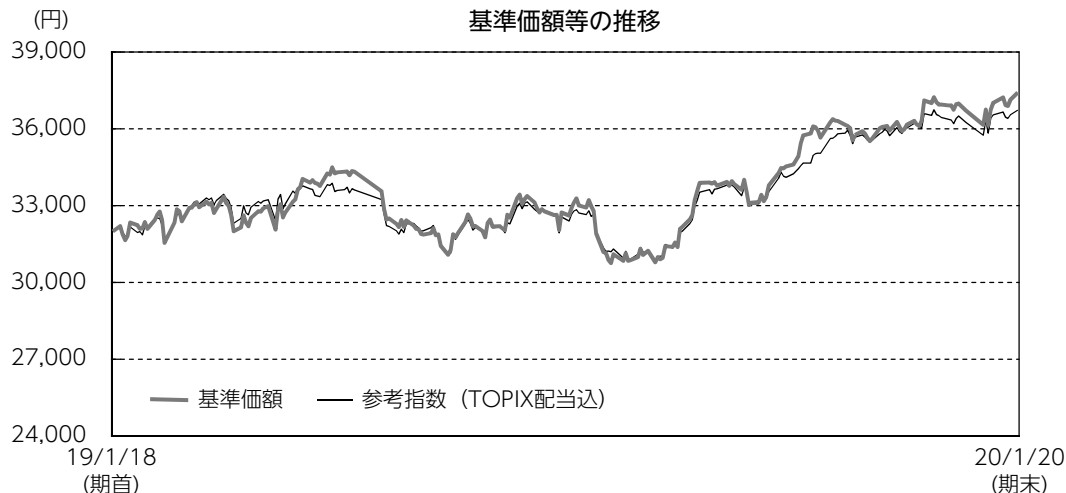
(注) TOPIX：東証株価指数（東証第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数）

●当期中の基準価額と市況等の推移

| 年 月 日 | 基準価額 | 騰落率 | 参考指数 (TOPIX配当込) | | 株 式 組入比率 |
|------------|--------|-------|--------------------|-------|-------------|
| | | | | 騰落率 | |
| (期 首) | 円 | % | | % | % |
| 2019年1月18日 | 31,994 | — | 2,317.60 | — | 98.4 |
| 1月末 | 32,353 | 1.1 | 2,332.52 | 0.6 | 94.2 |
| 2月末 | 32,710 | 2.2 | 2,393.08 | 3.3 | 92.1 |
| 3月末 | 32,729 | 2.3 | 2,395.21 | 3.3 | 90.2 |
| 4月末 | 34,324 | 7.3 | 2,434.82 | 5.1 | 89.7 |
| 5月末 | 31,431 | △ 1.8 | 2,275.96 | △ 1.8 | 94.3 |
| 6月末 | 32,533 | 1.7 | 2,338.89 | 0.9 | 91.8 |
| 7月末 | 32,980 | 3.1 | 2,360.18 | 1.8 | 96.7 |
| 8月末 | 31,421 | △ 1.8 | 2,280.58 | △ 1.6 | 94.9 |
| 9月末 | 33,619 | 5.1 | 2,418.29 | 4.3 | 92.0 |
| 10月末 | 35,918 | 12.3 | 2,539.02 | 9.6 | 93.3 |
| 11月末 | 35,928 | 12.3 | 2,588.40 | 11.7 | 94.7 |
| 12月末 | 36,711 | 14.7 | 2,625.91 | 13.3 | 95.5 |
| (期 末) | | | | | |
| 2020年1月20日 | 37,414 | 16.9 | 2,660.70 | 14.8 | 93.7 |

(注) 騰落率は期首比です。

●当期の運用経過



(注) 基準価額は1万口当たりで表記しています。

(注) TOPIX：東証株価指数（東証第一部に上場しているすべての日本株を対象とした、時価総額加重型の株価指数）

(注) 参考指数（TOPIX配当込）は、期首の値をファンドの基準価額と同一になるよう指数化しています。

詳細については、P 5～10をご参照ください。

●1万口当たりの費用明細

| 項 目 | 当 期 2019年1月19日～2020年1月20日 | | 項 目 の 概 要 |
|----------------------|------------------------------|-------------------|---|
| | 金 額 | 比 率 | |
| 平均基準価額 | 33,554円 | | 期中の平均基準価額です。 |
| (a) 売買委託手数料 (株 式) | 31円 (31) | 0.093% (0.093) | (a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料 |
| (b) その他費用 (そ の 他) | 3 (3) | 0.008 (0.008) | (b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・金銭信託に係る手数料等 |
| 合 計 | 34 | 0.101 | |

(注) 期中において発生した費用（消費税のかかるものは消費税を含む）は追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注) 消費税は報告日の税率を採用しています。

(注) 各金額は項目ごとに円未満を四捨五入してあります。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

●**売買および取引の状況** (2019年1月19日～2020年1月20日)

株 式

| | | 買 付 | | 売 付 | |
|-------|--|-------|------------|-------|------------|
| | | 株 数 | 金 額 | 株 数 | 金 額 |
| 国 | | 千株 | 千円 | 千株 | 千円 |
| 内 上 場 | | 6,759 | 16,351,300 | 5,689 | 15,043,508 |

(注) 金額は受渡し代金。
(注) 単位未満は切捨て。

●**株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合** (2019年1月19日～2020年1月20日)

| 項 目 | 当 期 |
|-------------------------------|--------------|
| (a) 期 中 の 株 式 売 買 金 額 | 31,394,809千円 |
| (b) 期 中 の 平 均 組 入 株 式 時 価 総 額 | 25,921,164千円 |
| (c) 売 買 高 比 率 (a)／(b) | 1.21 |

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均。
(注) 金額の単位未満は切捨て。

●**主要な売買銘柄** (2019年1月19日～2020年1月20日)

| 買 付 | | | | 売 付 | | | |
|-----------------|-------|---------|--------|------------|-------|-----------|--------|
| 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 | 銘 柄 | 株 数 | 金 額 | 平均単価 |
| | 千株 | 千円 | 円 | | 千株 | 千円 | 円 |
| クボタ | 542.1 | 876,584 | 1,617 | ディスコ | 60.4 | 1,091,205 | 18,066 |
| ヤマトホールディングス | 368.5 | 772,293 | 2,095 | カカクコム | 388 | 935,851 | 2,411 |
| ディスコ | 42.2 | 739,914 | 17,533 | 東京エレクトロン | 48.9 | 826,213 | 16,895 |
| シスメックス | 99.5 | 678,078 | 6,814 | シスメックス | 115.8 | 807,155 | 6,970 |
| 資生堂 | 82.2 | 659,146 | 8,018 | 堀場製作所 | 122.5 | 707,952 | 5,779 |
| クラレ | 497.3 | 658,154 | 1,323 | 資生堂 | 86.1 | 672,445 | 7,810 |
| 楽天 | 631.6 | 646,506 | 1,023 | 楽天 | 590.2 | 615,187 | 1,042 |
| 日揮ホールディングス | 442.5 | 645,653 | 1,459 | クボタ | 352.7 | 594,850 | 1,686 |
| デンソー | 138.8 | 645,486 | 4,650 | 日揮ホールディングス | 367.6 | 592,471 | 1,611 |
| セブン&アイ・ホールディングス | 161.6 | 631,029 | 3,904 | 旭化成 | 487.3 | 568,783 | 1,167 |

(注) 金額は受渡し代金。
(注) 金額の単位未満は切捨て。

●**利害関係人との取引状況等** (2019年1月19日～2020年1月20日)

当期中における利害関係人との取引状況等はありません。

(注) 利害関係人とは、投資信託および投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人をいいます。

●組入資産の明細 (2020年1月20日現在)
国内株式 (上場株式)

| 銘柄 | 期首(前期末) | 当期末 | |
|--------------------|---------|-------|-----------|
| | | 株数 | 評価額 |
| | 千株 | 千株 | 千円 |
| 建設業(3.2%) | | | |
| 日揮ホールディングス | 491.7 | 566.6 | 956,420 |
| 食料品(3.0%) | | | |
| 味の素 | 406.1 | 502.3 | 912,679 |
| 繊維製品(2.0%) | | | |
| 東レ | 860.5 | 782.8 | 597,354 |
| 化学(20.4%) | | | |
| クラレ | 514.3 | 669.9 | 913,073 |
| 旭化成 | 763.8 | 803.5 | 968,619 |
| 信越化学工業 | 107.3 | 87 | 1,096,200 |
| 資生堂 | 145.4 | 141.5 | 1,103,983 |
| 日東電工 | 140.1 | 154.4 | 977,352 |
| ユニ・チャーム | 260.7 | 293.8 | 1,078,246 |
| 医薬品(4.1%) | | | |
| エーザイ | 98 | 146.6 | 1,224,256 |
| 金属製品(2.6%) | | | |
| リンナイ | 93 | 95.7 | 800,052 |
| 機械(20.6%) | | | |
| ディスコ | 62.9 | 44.7 | 1,180,080 |
| SMC | 14.2 | 13.9 | 735,727 |
| コマツ | 339.6 | 347 | 922,673 |
| クボタ | 462.7 | 652.1 | 1,144,761 |
| ダイキン工業 | 69.5 | 73.5 | 1,171,957 |
| マキタ | 214.2 | 259.4 | 1,050,570 |
| 電気機器(14.8%) | | | |
| 日立製作所 | 233.2 | 243.9 | 1,119,988 |
| 堀場製作所 | 176.7 | 155.1 | 1,133,781 |
| シスメックス | 151.2 | 134.9 | 1,058,020 |
| 東京エレクトロン | 59.3 | 45.6 | 1,148,208 |

| 銘柄 | 期首(前期末) | 当期末 | | |
|---------------------|---------|---------|-----------|------------|
| | | 株数 | 評価額 | |
| | 千株 | 千株 | 千円 | |
| 輸送用機器(5.5%) | | | | |
| デンソー | 145.8 | 211.2 | 1,060,435 | |
| ホンダ | 183 | 196.6 | 602,775 | |
| 陸運業(3.3%) | | | | |
| ヤマトホールディングス | 293.5 | 512 | 995,328 | |
| 卸売業(6.7%) | | | | |
| 丸紅 | 988.5 | 1,094.8 | 907,151 | |
| 三菱商事 | 275.5 | 382.1 | 1,113,057 | |
| 小売業(3.8%) | | | | |
| セブン&アイ・ホールディングス | 177.9 | 264.8 | 1,134,668 | |
| サービス業(10.0%) | | | | |
| カカクコム | 479.9 | 350.8 | 1,039,771 | |
| 楽天 | 1,060 | 1,101.4 | 1,029,809 | |
| バネッセホールディングス | 296 | 306.9 | 942,183 | |
| 合計 | 株数・金額 | 9,564 | 10,634 | 30,119,183 |
| | 銘柄数<比率> | 30 | 30 | <93.7%> |

(注) 銘柄欄の()内は、国内株式の評価総額に対する各業種の比率。

(注) 評価額欄の< >内は、純資産総額に対する評価額の比率。

(注) 評価額の単位未満は切捨て。

●投資信託財産の構成

2020年1月20日現在

| 項 目 | 当 期 末 | |
|-------------------------|------------------|-----------|
| | 評 価 額 | 比 率 |
| 株 式 | 千円 30,119,183 | % 93.5 |
| コ ー ル ・ ロ ー ン 等 、 そ の 他 | 2,088,724 | 6.5 |
| 投 資 信 託 財 産 総 額 | 32,207,907 | 100.0 |

(注) 金額の単位未満は切捨て。

●資産、負債、元本および基準価額の状況

2020年1月20日現在

| 項 目 | 当 期 末 |
|---------------------------|-----------------|
| (A) 資 産 | 32,207,907,348円 |
| コ ー ル ・ ロ ー ン 等 | 2,031,292,488 |
| 株 式(評価額) | 30,119,183,260 |
| 未 収 配 当 金 | 57,431,600 |
| (B) 負 債 | 76,115,751 |
| 未 払 金 | 60,204,980 |
| 未 払 解 約 金 | 15,792,653 |
| そ の 他 未 払 費 用 | 118,118 |
| (C) 純 資 産 総 額(A - B) | 32,131,791,597 |
| 元 本 | 8,588,227,981 |
| 次 期 繰 越 損 益 金 | 23,543,563,616 |
| (D) 受 益 権 総 口 数 | 8,588,227,981口 |
| 1 万 口 当 たり 基 準 価 額(C / D) | 37,414円 |

(注) 期首元本額 7,858,298,670円
 期中追加設定元本額 1,868,019,001円
 期中一部解約元本額 1,138,089,690円
 (注) 当マザーファンドの当期末元本額におけるベビーファンド別内訳は、次の通りです。
 コモンズ30ファンド 5,112,544,476円
 コモンズ30ファンドⅡ-B (適格機関投資家用) 3,284,418,889円
 コモンズ30+しずぎんファンド 191,264,616円

●損益の状況

(2019年1月19日~2020年1月20日)

| 項 目 | 当 期 |
|--------------------------|-----------------|
| (A) 配 当 等 収 益 | 559,542,543円 |
| 受 取 配 当 金 | 559,542,150 |
| 受 取 利 息 | 47 |
| そ の 他 収 益 金 | 346 |
| (B) 有 価 証 券 売 買 損 益 | 4,081,255,143 |
| 売 買 益 | 4,946,211,800 |
| 売 買 損 | △ 864,956,657 |
| (C) そ の 他 費 用 等 | △ 2,098,162 |
| (D) 当 期 損 益 金(A + B + C) | 4,638,699,524 |
| (E) 前 期 繰 越 損 益 金 | 17,283,235,599 |
| (F) 追 加 信 託 差 損 益 金 | 4,402,981,246 |
| (G) 解 約 差 損 益 金 | △ 2,781,352,753 |
| (H) 計 (D + E + F + G) | 23,543,563,616 |
| 次 期 繰 越 損 益 金(H) | 23,543,563,616 |

(注) (B)有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
 (注) (C)その他費用等にはその他費用等に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
 (注) (F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
 (注) (G)解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。